

【実践報告】

教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部

教育学科 教授 佐伯 育郎

教授 村上 典章

1 はじめに

本科目は、小学校教員志望者が実際の教育現場に出て行う4週間（20日間）の実習である。これまでの教育実習Ⅶや教育実習Ⅰにおける学びを生かして、学生自身が実習校の児童を対象とした実際の授業を担当する。この実習を通して、子どもの実態を理解し、現場の教員と小学校の実態、地域との関係等々を体験的に理解するとともに、教師としての使命を自覚し、教育に対する意欲を高め、教師として必要な資質能力の向上に向けて自己の学修課題を明らかにすることを目的とする。

2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前学修 (学内)	4月～5月 7月～8月	<ul style="list-style-type: none">・実習校から教育実習受け入れ通知書が教職センターへ届く。教職センターに向いて通知の内容を確認した後、実習校へ電話でご挨拶をする。・教育実習事前説明会に参加し、教育実習Ⅱ・Ⅲの意義、目的、心構え、手続き等を再確認する。教育実習記録を受け取り、記述方法や書類などの提出方法について理解する。・実習校への事前訪問により、指導担当教諭などから、配属学年、配属学級の児童の実態や、教育実習の全体計画、実習の事前課題などを確認する。教育実習出勤簿や教育実習評価票などについて説明し、実習校へ提出する。
本実習 20日間 (学外)	9月～12月	<ul style="list-style-type: none">・実習の内容は、実習校により計画される。実習中は教育実習日誌等の記録を取り、小学校教諭の職務等についての理解を深める。・主な学修課題として、①教育の理論と実践の一体化②基本的教育技術の習得③発達期にある子どもの理解④教育的人間関係における相互作用についての学習⑤教育者としての自覚の高揚、が挙げられる。観察・参加はもとより、実習授業に関しても万全の準備をした上で意欲的・主体的に取り組む。
事後学修 (学内)	10月～1月 令和2年度は 12月1・8日、 1月12日5コマに実施。 タイトルは 38b（みやび） ～“みんなの 可能性は無限大”!!	<ul style="list-style-type: none">・各自の教育実習を振り返り、実習校から返却された教育実習記録を読み返し、加筆・修正をしてまとめ直す。校長、指導担当教諭からの所見にも目を通した後、教職センターに再提出する。・教育実習記録をもとに実習校での学びを振り返り、教育実習報告会用のレジュメを作成する。提出されたレジュメを印刷・製本し、教育実習報告書を作成する。・教育実習実行委員会を中心に、教育実習報告会を企画・運営する。・実習報告会では、学生が主体的に設定したテーマに基づき、小グループに分かれて討論・発表を行う。他学年の学生や教員も参加し、議論に加わる。令和2年度では、1回目：授業の工夫など授業関連、2回目：学校経営、3回目：児童の発達段階に応じた主体性を育むために教師が支援できることをテーマとして議論した。・報告会終了後、振り返り冊子を作成・発行することで教育実習のまとめとし、今後の学びに生かす。

3 活動の概要

(1) 実習授業・研究(査定)授業の主なテーマ等(学生の報告資料より抜粋)

教科名	対象	単元・題材名
国語	第3学年	すがたをかえる大豆
国語科書写	第4学年	左右の組み立て方
社会	第3学年	店の仕事
算数	第4学年	がい数の使い方と表し方
理科	第4学年	閉じ込めた空気と水
生活	第1学年	むしとなかよくなるう
音楽	第1学年	せんりつでよびかけあおう
図画工作	第1学年	ふわふわゴー
体育	第6学年	ソフトバレーボール
道徳	第5学年	見えた答案
外国語活動	第4学年	おすすめの文房具セットをつくらう

(2) 教育実習を通して学んだこと(学生の報告資料より抜粋)

・配属クラスの学級経営

配属クラスは、男女問わず仲がとても良く、週1回の全員遊び以外の休憩時間もしっかりと外で遊んでいた。担任の先生は、「歩調を合わせる」ことを大切にされており、給食当番が食器を返して戻ってきて全員が席に座ってから、着替えをしたり宿題やテストのやり直しをしたり、全てが終わってから遊ぶことを徹底していた。休憩時間だから何もしなくていいという考えで過ごさせるのではなく、時には休憩時間がなくなったとしても、全員が歩調を合わせることを日頃から徹底していた。そのため、授業中や日常生活の中で、誰にでも合わせ、できないことがある時には教師側が何も言わなくても手を差し伸べることのできる児童がたくさんいた。(配属：第4学年)

・真似したい実習校の先生方の指導法・工夫とその理由

実際に授業をすることを経験して、低学年ではまだ落ち着きがなく、教師の声が届かないことが多いことを学んだ。その中で、低学年の先生方は様々な合図や合言葉を用いて活動の切り替えを示したり、静かにさせたりしていた。そうすることで、子どもたちは決まった合図や合言葉に自然と反応し、教師の指示をよく聞くことができていた。しかし、高学年になると教師からの指示はほとんどなく、自分たちで考えて行動するように促していた。また、低学年では板書の行の文字数をノートに行の文字数に合わせ、板書をそのままノートに写せるように工夫していた。高学年になると、文字数を合わせることも無く、板書の仕方もそれぞれで工夫し、ノートを自由に使えるようにしていた。このように学年の発達段階に合わせた工夫が必要で、低学年では学習基礎を育て、高学年では自分の力で物事を考える力を身に付ける指導が大切だと分かった。(配属：第2学年)

・「私ならこうしたい」と考える自身の指導法・工夫とその理由

授業が進んでいく中で、理解している児童とそうでない児童などの把握が授業内で視覚的にわかる方法を取り入れたいと考える。理解できていない児童を把握できれば、ペア活動を取り入れたたり、個人指導を行ったりすることができ、地元自治体で評価の見方として進められている、授業内で満足できる状況にない児童をおおむね満足の状態へ授業中に引き上げることに繋がるものと考えている。

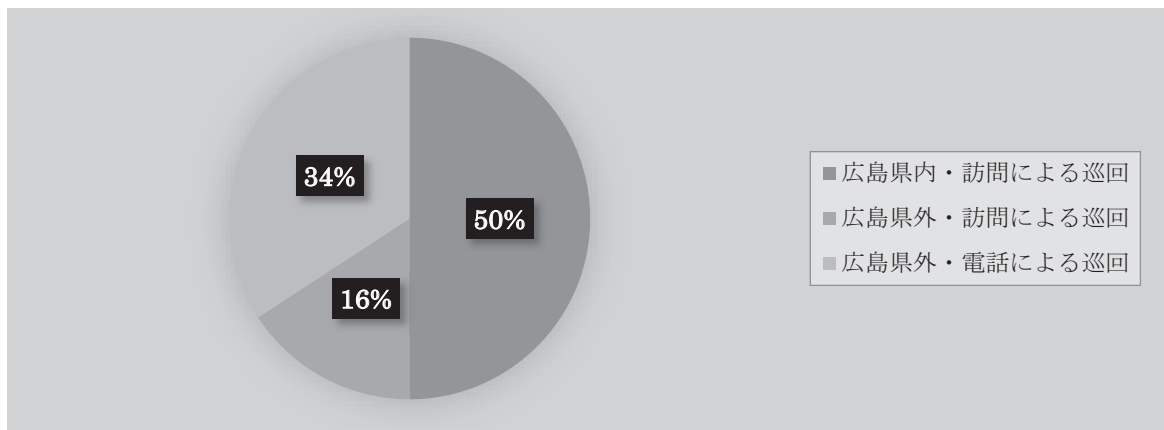
(配属：第1学年)

4 成果と課題

昨年度、教育実習記録を改訂したが一部落丁があったので、更に修正を行った。例年通り、教育実習Ⅱ・Ⅲ担当教員2名で教育実習記録の閲覧・確認を行った。記録状況、資料整理、考察の充実度、表現の4観点で分析した。その結果、実習生による記述、指導担当教諭の所見など、今年度も総じて充実した内容であった。児童と接する時間を重視して欲しいという方針の実習校では、教育実習記録と同じ書式をMicrosoft Wordで作成し、入力したものを印刷して貼り付けていた学生も見られた。教育実習記録の日誌については、指導担当教諭の講評・助言の欄を変更せずに残したが、印のみでもよいことを実習生から伝えることで指導担当教諭の負担を軽減するように配慮した。

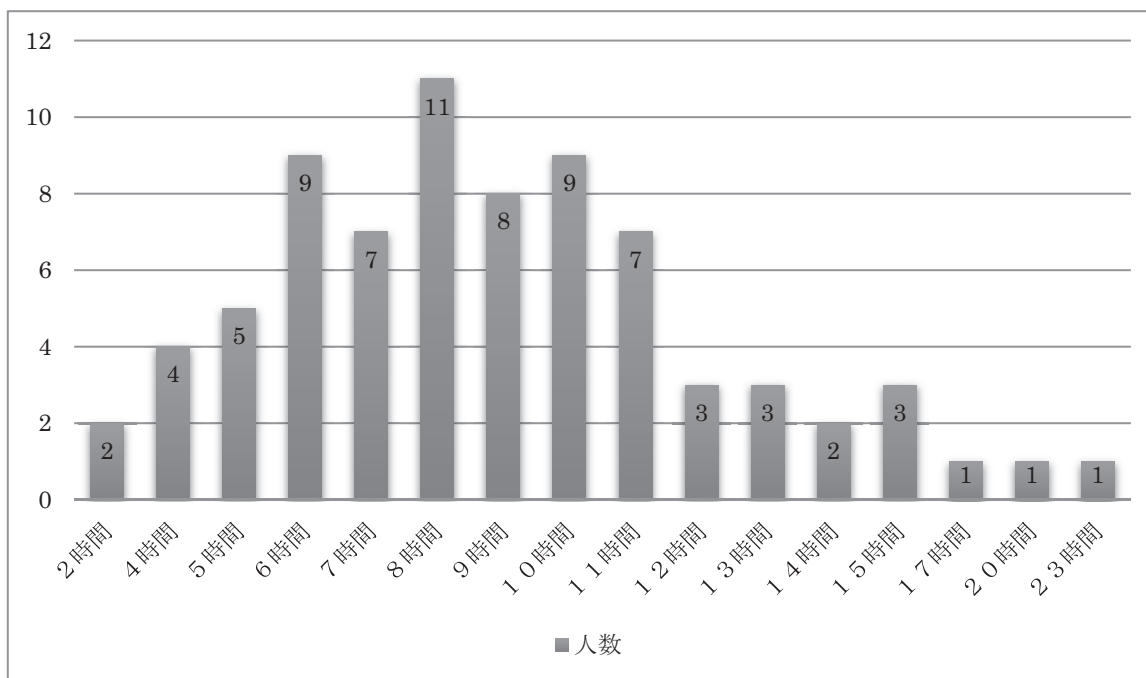
教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）における実習校については、学生の希望を尊重し選定している。本学が位置する広島市では、広島市立学校教育実習要項に従って、主に学生の出身校において教育実習を行っている。実習期間中は、教職センターの運営委員を中心に教員が実習校に伺い、受入に対する挨拶と授業実習の参観などを行う巡回指導を実施している。広島市以外の広島県内も同様である。本学には附属小学校がないこともあり、広島県・市以外の自治体出身の学生についても、出身校での教育実習の実施が多い。出身自治体で教職に就くことを希望している学生が多く、教員採用試験の学修に先駆けて地域の教育や児童の実態などを知る上でも意義があるため、本学では従前より学生の希望を優先している。

昨年度と同様、広島県内だけでなく、広島県外においても、上述の担当教員が巡回指導を行った。巡回指導教員用の巡回指導マニュアルも一部修正して活用した。10月から後期の授業が開始されるため、授業に支障がない9月中に県外（四国、九州、島嶼部を除く）の巡回指導を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、訪問による巡回指導を断られる場合もあり、その際は電話巡回に切り替えた。10月以降は実習校への電話での巡回指導のほか、担当教員によるMicrosoft Teamsを活用した遠隔教育的な実習生への指導・助言も行った。県外の実習生への指導を充実させるため、今後もよりよい指導の方法を模索していきたい。なお、今年度は実習生76人中、広島県内の実習生は38人（50%）、広島県外の実習生は38人（50%）であった。



【令和2年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）における巡回指導の実際（初等教育学科38期生）】

実習授業の時間数は通常10時間程度と学生に指導しているが、実習校の事情もあり2時間から23時間までの開きがあった。グラフ化すると、次のようになる。



【令和2年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小学校）における授業実習の時間数（初等教育学科38期生）】

実習報告会実行委員は、例年同様入念な準備を行い、レジュメ作成の際には実習期間を考慮して、所属ゼミナール毎の締切日を設定するなど、実にきめ細かな運営体制であった。実習報告書の内容は充実しており、教員、当該学年の学生、他学年の学生すべてにPDFデータとして配信した。今後もよりよいものを目指して改善していきたい。



【令和2年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告書（初等教育学科38期生）】

実習報告会は、例年通り3コマ実施した。1・2回目は当該学年の学生は対面で参加し、下級生はMicrosoft Teamsを用いてオンラインで参加した。発表・配信にはiPadを活用したが、オンラインの参加者には見えやすさ、聞き取りやすさに課題が見られた。実行委員会で討議内容・配信方法などを改善し、回を重ねる毎に充実した内容となっていく。12月15日に行われる予定であった3回目は、新型コロナウイルス感染拡大の状況を踏まえ、1月12日に延期した。実行委員と担当教員で協議した結果、3回目はオンライン開催に変更した。臨機応変に対応できる実行委員であった。報告会の反省点・課題は、次年度の実行委員会に綿密な引き継ぎを行うことで改善していきたい。



【令和2年度・教育実習Ⅱ・Ⅲ（小）報告会（初等教育学科38期生）】

実習報告会の終了後、振り返り冊子「令和2年度 教育実習Ⅱ・Ⅲ報告会 質疑・応答&成果 課題 まとめ」を例年通り作成した。全3回の報告会で出た参加者からの質問に対する回答、実習報告会の成果と課題なども記述されており、充実した内容となっている。報告書と同様、PDFデータとして配信することに改めた。

今後も、学生の主体性・協働性を大切にしながら、よりよい方向へと支援していきたいと考える。